

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【2年生配布用】

No22 岐阜県立大垣北高等学校 SGH 推進部

2年間のSGHのまとめの時期。研究成果を英語で伝えよう！

～相手に自分の思いを伝えて共感を得るために、あなたは何を工夫しますか？～

12月の日本語プレゼン発表会で、課題研究の一つの区切りができました。年度末の学年プレゼン発表会までは、英語で自分の意見を伝え、そして相手の意見に耳を傾ける時期になりました。日本語論文を逐語訳しても、相手に伝わる文章にならないことは、昨年度の経験で身につけていますね。また、英語プレゼンも、「以心伝心」に期待することはできません。自分が何を伝えたいのか、今一度研究成果を振り返る必要があります。大学研究者の中には、プレゼンテーションを先に行き、論文の論理性にメスを入れてから、論文の再作成に入る人もいと聞いています。「相手に何を伝え、何を共感して欲しいのか？」シンプルに考え方をまとめて、前進してください。



【岐阜大学川瀬真弓助教の講義】



【プレゼン作成①】



【プレゼン作成②】

【英語論文作成・英語プレゼンテーション日程】

日	時	曜	時	内 容	場 所
1月27日		水	2	英語プレゼンテーション作成（講師：岐阜大学工学部川瀬真弓先生）	PC室
2月3日		水	2	英語論文のタイピング（←岐大・名外大の留学生による添削指導）	PC室
2月10日		水	2	英語論文のタイピング完成、英語プレゼンテーション原稿作成	PC室
2月17日		水	2	英語プレゼンテーション練習（講師：岐阜大学工学部レイモンド先生）	PC室
2月24日		水	2	クラス発表会（5領域研究に関する個人英語プレゼン）【生徒相互評価】	PC室
3月22日		火	2	学年発表会（5領域研究に関する個人英語プレゼン）【生徒相互評価】	ゼミ室

※日時については、基準日を示し。PC室の利用日については前後することがある。

12月の日本語プレゼンテーションで「燃え尽きたかな」と思っている人も、伝える相手が変わったことを意識しましょう！英語プレゼンも日本語の時と同様に、聴き手が共感して初めて目的を達成することができます。初めてこの問題を考える人にも、どこに課題があって、その背景は何で、そしてあなたがどのように課題解決を図ろうとしているのか。はっきりと伝える努力をしてみましょう！！

名古屋外国語大学との連携プログラム 「外国人講師による英語コミュニケーション特別授業」を実施（1／30） 18名（1年12名、2年6名）が参加しました

この「英語コミュニケーション特別授業」は、英語ネイティブによる「聞くこと」「話すこと」を中心とした集中授業を行うことにより、生徒の英語コミュニケーション力の向上を図るため、1月30日（土）に本校で開催しました。

名古屋外国語大学からネイティブ講師6名が来校され、生徒3名に対して1名が担当していただくという、語学学習としては大変素晴らしい環境の中で実施されました。

名古屋外国語大学の特徴的な取組の一つである“超”少人数授業「PUT (Power-up Tutorial)」の形式を通して、「英語で発信する力」の土台づくりを体験しました。

日頃の授業では、40人前後で英語を学習していますが、今回は3人ずつということで、生徒1人ひとりの話す時間が圧倒的に多く、英語運用能力の向上は勿論、我々日本人がもっている、外国人に対する気後れや緊張といった「心理的なバリア」を取り払って、楽しく英会話をすることができました。



まずはウォーミングアップとして、英語を話す雰囲気づくりのため、自己紹介等を行いました。「心理的なバリア」を取り除くのに一番効果があるのが、ネイティブスピーカーと会話をする経験を重ねることですが、どの生徒も積極的に自分自身のことを英語で表現し、とても明るく和やかな雰囲気で授業が行われました。

ネイティブの先生とも完全に打ち解け、後半はワークシートを活用しながら、日頃の生活などについて英語で話していました。どの先生も、雰囲気作りが大変うまく、生徒たちから巧みに英語を引き出してみえました。

授業後、生徒に感想を尋ねてみると、「めちゃくちゃ楽しかった！」「いっぱい英語を使うことができた！」など、みんな笑顔で語ってくれました。

次回は、2月6日（土）、20日（土）に開催されます。

